

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

議長から登壇の許可をいただきましたので、私、5番大河内智の一般質問を始めさせていただきます。

今回、私は大きく3項目を提起いたしております。1つは、政策課題と市政運営について、その中に3項目、観光政策と、2つ目に農林業政策、そして3つ目に雇用、企業誘致についてということで行っています。大きい2つ目に、子育て、次世代育成支援についてということで、その1つに保育サービス、2つ目に放課後児童クラブの指導員の方の雇用条件について。大きい3項目に、新幹線西九州ルートについて通告をいたしておりますので、質問をいたします。

まず、1つ目の政策課題と市政運営についてでございます。この件につきましては、同僚議員からも多くの質疑も出ていますが、改めて樋渡市長は4年前、前進か停滞か、ぬくもりのある元気な武雄市をつくる政策提起をされて、そして1期4年、今務められています。今回の市長演告の中にもその一部ですが、市民病院移譲問題等を含めて樋渡市政の最重要項目であり、この問題に取り組む中で、私が絶対に忘れなかったことは、市民の立場・市民の目線に立つこと。とりわけ、弱者の方々への視点を忘れずに、さらには将来を担う子どもたちに財政的な負担をかけないこと、この問題を絶対に先送りしないこと、この思いの一存でありました。このことは、市民病院問題に限らず樋渡市政のすべての政策を遂行する上での根幹となるものであります、という演告がございます。

そういう状況の中で、演告はそれといたしますが、市民の政策の目線と、一方での市政の市長の政策実現に対する取り組みの中で、若干差異がありそうな気が私はいたします。市民の立場からすれば、市政運営については、市民、住民の方は一定所得のある方々以上は、国税、県税、地方税、いわゆる市民税等の納税義務が憲法第30条でうたわれています。一方で憲法第25条では、すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するという項目も言われています。市民の方々、住民の命や財産、安全・安心な生活を求めて納税をし、行政は市民の方々の負託要望にこたえるために、公平と公正な公共サービスを実現すべく、責任を持ってその業務に邁進されていると思います。

市長は、地域の悩み、悲しみといった現状を政策に転換させ、その政策を議会に提案し遂行するとも言われていました。議会や議員はその検証の責任もあろうと思いますので、今回、私は3項目について要点を絞りました。質問の順序をちょっと変更させてもらいまして、1つ目の観光の項につきましては、後のほうで質問させていただきたいというふうに思います。

そういう中で今回、農林業政策につきましては、私は12月議会で林業政策を訴えました。最近マスコミでも、林業政策につきましては全国的にも取り組みがされていますが、今回、農業問題にかかわる中で、レモンガラスと、そしてその他の地場の製品についての取り扱い方について、まず質問いたします。

この間、武雄でも地場産品として、米、麦、大豆はもとより、キュウリやトマトやナスやチンゲンサイ、そして、カキやミカンなどなど多くの地場産の品物を農家の方々がこれまで営々として積み上げた取り組みの中で、J A、以前は農協の方々とさまざまな指導なりお互いの情報交換をしながら、育成なり産品の販売ルートもつくられてきました。これまでのJ Aとのかかわり合い、地場産品の販売ルートの取り組み等につきまして、市の行政サイドとして、どのような関係団体との連携なり、指導なり、共同歩調が取り組まれたのかを、まず冒頭お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

農林関係についての取り組みでございますけれども、これについては今現在、20年度からですか、レモンガラスの課をつくりまして、そっちのほうはかなり目立っているという状況で、なかなか従来からの農政に対するものが何か薄らいでいるような感じが、それは、私は決してないと思います。そういうことで、例えば、米とか麦とか大豆とか、そういうものについても農協と連携をしてやっております。それから、園芸関係、畜産関係、いろんな活動の支援も予算を含めまして、決して予算が減ったとか、そういうことは一切ございません。

その中でJ Aとの関係でございますが、武雄にはいろんな特産品がございます。具体的に申し上げますと、J Aの集荷場を経由して出荷をしているものについては、まず、山内の集荷場については、これはJ Aの集荷場ですが、チンゲンサイとか、あるいはコマツナ、それからジネンジョですね。それから武雄の集荷場、これについてもチンゲンサイ、キュウリ、タマネギ、イチゴ、カキ、ゴーヤ、ナス、ミカン。それから大町の集荷場、これについてはタマネギが中心でございます。それから、鹿島のほうの集荷場についてはアスパラということで、J Aを通した出荷がされています。それから、J A以外の系統でございますけど、これについては、J Aの部会員以外の方とか、直接市場へ持っていかれる方、例えば、チンゲンサイとかイチゴとかミカンとか、そういうのがありますが、J Aを経由したもの、それから経由しないもの、いろんな取り組みがありますが、全体的に市としては農政係を中心に支援をしてきたということがございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

加えて私レベルにおきましては、J Aの永尾統括常務さん、そして、あそこに座っておられるJ Aの小池理事さんを中心として、公式、非公式にさまざまな意見交換をさせていただいています。その中で私は、J Aは最も大切なパートナーの一つだということで心得ており

まして、いろんなJAさん主催の大会であるとか、総会であるとか、あるいは共済のものについては、私のスケジュールのあく限り必ず参加するようにしております。その中で、あと私が大切にしてきましたのは、現場の農業経営者の皆さんたちとの意見交換であります。黒尾のキュウリをつくられている皆さんであるとか、あるいは山内町でチンゲンサイをつくられている皆さんであるとか、さまざまな方々と意見交換して、皆さんたちの悩みや悲しみや苦しみを共有するということが心掛けてまいった4年間だったかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

私が住んでいる黒尾でも、エコきゅうり、これに非常に努力をされているところもあるし、JAで管理する中でも佐賀みどり支部でいろんな地場の取り組みもされて、それをお互いに情報交換しながら販売ルートの開拓等もされていることも、組合ニュースでも報道されています。そういうふうに、この間ずっとお互いに積み上げられてきた地元産品の取り扱い方の取り組みについても評価を今いただいているし、JAとも連携されているというふうに申されましたので、ぜひこれについては、中央の農政の中では、最近のマスコミ新聞では若干見直しでもしようかという方向もありますけれども、これはやっぱりお互いのいいところは、すぐれたところは学び合い交流し合いながら、お互いの連携をしていただきたいというふうに、この間の経緯を踏まえて思っているわけですが、そういう中で、今ちょっと出ましたレモングラスの関係です。

先日ですか、13番議員の質問の中で、レモングラスの状況についても御答弁がありました。が、実はレモングラスについても、地元の方々、期待と不安感も実はお持ちです。もちろんハッピーファーマーズ、一生懸命経営されています。私自身もお隣ですので、毎日見聞きしながら通っておりますが、そういう中で、実は13番議員の先日の答弁の中でも、レモングラスに対する直接効果と間接的な効果も説明がありました。もちろん、初期投資含めた立ち上げの場合の一定の費用も必要だろうということで、公費、いわゆる公的な資金として2,000万円から3,000万円というふうにも言われていますけれども、今回質問したいのは、先日の直接的な効果として、トータルで雇用の105人、2,000万円の数字が出ましたけれども、この直接効果につきまして、もう少し数字の内容を御説明いただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

昨日もお答えしましたけれども、再度お答えしたいと思います。

まず、直接的な効果でございますが、まず雇用関係につきましては、農事組合法人武雄育ちのハッピーファーマーズですか、そこでの雇用が合計で46名で1,200万円でございます。内訳として、20年度が21名の500万円、それから、21年度が25名の700万円ということで、地区的には黒尾、中野、川内でございます。

それから生産農家ですね、これについては4地区ございまして、トータルでいきますと、雇用の数は59名で810万円。内訳を申し上げますと、まず、中野みつば集落営農組織、そこが20年度で10名の120万円、それから21年度、11人の110万円。それから、若木の川内での雇用でございますが、20年度で7名の90万円、それから、21年度で8名の100万円。それから、次に黒尾地区でございますが、20年度で7名の100万円、それから、21年度で8名の120万円、合計の15人の220万円。それから、山内での雇用が20年度が3名の30万円、それから、21年度が4名の40万円、合計の7名の70万円ということで、トータル的に言いますと、105名の2,010万円という金額でございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

今あった分は、いわゆる雇用に係る分と思うわけです。そのトータル2,000万円というのが、私的に見れば人件費というふうに見ていいのではないかと思うんですけども、それとは別に、今度は間接的なかわりとして、5億円の宣伝効果含めてあったと言われていますが、実は3年間、武雄として3,000万円前後の公費が投入されていますけれども、当然、行政が行う以上、収支予測は出されて計画されていると思うわけです。この3年間での投資に対するもうけと申しますか、利益はどのような数値に出されていますか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

まず、先ほどの3,800万円の数字につきましては、人件費を含んだ金額でございまして、いわゆるレモングラスに使った、例えば、需用費とか旅費とか、そういうのは3年間で約1,000万円でございます。

それから、農事組合法人の決算でございますけれども、これについては20年度が初年度で、実際のレモングラスの販売については3カ月から4カ月という期間でございまして、まず、初期の設備投資もございまして、当初の年度は若干の赤字が出たという報告を聞いております。それから、2年目の21年度、2期目でございましてけれども、今現在、税理士のほうに頼んで決算書をつくっておりますが、売り上げ的には約1,700万円程度の売り上げがあったということで、21年度については損益で若干の黒字ということを知っております。

それから、あとの効果でございますけれども、きのうも言いましたように、民間の会社等がいろんな商品の開発を、20から30種類の商品ができております。それが今から徐々に拡大しますと相当な効果があるということで、そこら辺の効果についての試算は今のところやっていますが、特にきのう言いましたように、例えば、介護用の歯磨きとか、あるいはノロウイルスとか、そういう殺菌の効果のある殺菌剤とか、そういうのが大学との研究の中でやっておりますので、そこら辺の効果は今から出てくるものというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あわせて間接効果でありますけれども、経済産業省のマーケティングアドバイザー、これは何度も答弁をさせていただいておりますけれども、約5億円の広告効果を含む経済効果があるという認定を受けております。

その中で、先ほど実は私のところに電話がありまして、きのうのブログにも載せたんですが、このブログを見た人で私の知人なんですけれども、紀ノ国屋で都内で8店舗、レモンガラスを、あと恵比寿堂のせんべいを含めて出ているんですけれども、今、佐賀フェアを、日本で一番の高級スーパーです、ここに出るとということは、いろんなバイヤーが全国から見られますので、あわせて全国に広がる可能性があります。

スーパーの中での伊勢丹というふうにとらえていただければ結構なんですけど、今、その中で一番売れているのがレモンガラス紅茶、レモンガラス緑茶だそうです。したがって、やはりもともと私たちが意図していた以上に、レモンガラスというのが生産農家の人たちが一生懸命つくられている。そして販路を、レモンガラス課を中心として行った結果、確かにトップセールスは私がやりましたけれども、後に皆さんたちが一生懸命追従をしてきた。これは黒岩議員の御質問でありましたけれども、「がばい武雄」ということで、一つはレモンガラスということで、武雄の知名度そのものも上がっているということについては、これは議員も否定をなさらないと思っていますので、そういう有形無形の効果はあったものというふうに認識をしています。

あわせて今度、NHKの番組でも流れますけれども、NHKの前の代々木公園で、また佐賀、全国のフェアがあったときに、これは今度、武雄産のイノシンが中心になりますけれども、あわせてレモンガラスであるとか、武雄の黒米であるとか、産品がさまざま出ていきますので、私とすれば経済効果を、もちろんそれは大事だし、重視してきましたけれども、いききっかけになったのではないかなということ、この3年間でそういうふうに総括をしておりますので、本当にいろんな宣伝をしていただいた議会の議員の皆様方には、この場をかりて御礼を申し上げたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5 番大河内議員

○5 番（大河内 智君）〔登壇〕

直接間接効果を含めて、今、数値もされましたが、法人化された事業団体の中では、20年度が赤字、21年度は売り上げとして1,700万円であり、黒字化になるのではないかというふうに提起をされました。私自身も毎日通る中で、一生懸命働いていらっしゃいますが、確かに作業としては手作業で、相当人件費を食うんじゃないかなという状況もあります。これは実際、武雄市内に4地区ありますが、2地区の方がおっしゃったのが、これは1つの例かもしれませんが、なかなか今の時点はもうからんねと。実は、まだ苗代ももらっとらんものということもありました。ぜひ、そういうふうな苦労をしながら一生懸命頑張っていると思います。そういう方々に対するできるだけの御援助もいただきたいし、商売である以上、経営も大事です。その中で、いかに工夫しながら、このレモングラスの事業についても取り組むかということが、今改めて問われているんじゃないかと思っています。

そういう意味で、今後の行政のかかわり方についても一応提起をしてありますが、いわゆる農業政策全体の中で、やっぱり農業者の要望としては、レモングラスもしかりですが、これまで武雄の地場産については、長い間苦労して販売ルートの開拓等もしてきたと。これをより以上にお互いに錬磨して、そして情報交換をしながら販売を促進していかなければならないし、それを間接的でも側面からでも応援することを行政に望んでいらっしゃいます。そういう意味で、全体的に今後の農産物の販売ルートを含めたあり方についての、さらにはレモングラス課が4月から廃止をされて、他の取り組みの中でやっていくということですが、その方向性についてお示しいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

レモングラスは一つのきっかけだったと思うんですね。多分、これは議員も私も同じ考えだと思うんですけども、物事というのはホップ・ステップ・ジャンプというふうに、大体この3段に分かれます。これは、私たちが学んだマルクスも大体同じことを言っています。3段に分かれる。

そのときに、実際、4年前に市長に就任させていただくときに大分悩みました、どういうふうに武雄の農産物を売っていこうかと。例えば、ある特定の産品が武雄だけあれば、それは物すごく売れるんですね、オンリーワンということで。しかし、そういったのというのは、基本的に余り見当たらなかった。たまたまですけれども、いろんな理由があってレモングラスをしたときに、これを一つの突破口にしたいと。私たちの行政用語では旗艦商品という言葉方をしましたけれども、フラッグシップですね、言い方をしましたけれども、これをきっかけとして販路をまず拡大すると。その成果が出て、先ほど御答弁申し上げましたように、

あの紀ノ国屋に置かれるようになる、あるいは伊勢丹に置かれるようになっている、あと東京のホテルにも置かれるようになっているということで、ブランドがこれで上がっています。

そして、次の段階に来ているということで、今度、レモングラス課を廃止して、4月1日に特産品課をつくります。特産品課の中にレモングラスはワン・オブ・ゼムとして、いろいろある中の一つとして側面的な支援をしていくということで、きょう、副市長と私で決断をしましたので、4月1日からは武雄市営業部特産品課として新たな門出を行くと。

これは、生産段階あるいは流通段階でいうと、ステップの段階なんですね。ですので、今、いろんな需要が高まっています。武雄はレモングラスということは、グーグルの検索でも、ヤフーの検索でも3番以内に入るぐらいになっています。レモングラスは食べ物ではありません。飲み物、あるいは歯磨き粉とか、あるいは嗜好品であるとか。今度は食べ物ですよ。例えば、キュウリであったり、チンゲンサイであったり、黒大根であったり、そういうことをうまくブランディング化して、それを特産品課として、今ある販路に乗せて売ってほしいというふうに思っていますので、もし私が民意において当選させていただくとするならば、今度の4年間というのはステップの段階、しかも今、JAの皆さんと強力なスクラムが組まれていますので、JAの皆さんたちと一緒にまた売っていくということ。

そして、3年前でしょうか、台湾に知事と唐津市長と私でJ-PON、あるいはレモングラスのトップセールスに参ったときに、JAの経済連の皆さんと知り合いになりました、末次常務さんであるとか。そういった方々が、今、海外の展開を非常に考えられています。そして私が、去年の秋でしたでしょうか、レモングラスの秀島課長と台湾に行ったときにいろんなトップセールスを仕掛けてまいりましたけれども、そのときにレモングラスは非常に好評でありましたけれども、その一方で、武雄の産品は何かないかということもおっしゃっていただいていますので、台湾、中国、あるいはタイであるとか、そういう海外展開をする必要があるだろうと。そのニーズは私もじかに確認をしてありますので、例えば、北方の橋下のイチゴであるとか、山内のニンジンでもいいですし、黒尾のキュウリでもいいと思いますけれども、そういう海外の皆さんたち、特に富裕層の皆さんたちの嗜好に合うようなものを輸出して、農業生産者の次の段階は所得を向上するという事に全力を傾けたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

いずれにしても、農業を取り巻く状況は大変厳しい状況でもありますが、しかし、地元でも頑張っていこうという方々も多く出ています。ぜひそういう意味ではサポートをお願いしたいということを強く申しまして、2つ目の雇用と企業誘致について質問いたします。

実はこの項につきましては、もう多くの議員が質問していますけれども、1つの雇用関係は、もちろんこれは営業部だと思いますので、今回、3月の補正予算で、国、県の補助金等の中で2億円等の掲載をされていますが、これは予算審議でいたしますので、企業誘致につきましても先ほど答弁等もございました。1点だけ。

これもずっと議論されていますけれども、この間、企業誘致をする場合にミスマッチ、なかなか一致せんと、ミスマッチになる部分と、それに対してどのようにそのミスマッチを改善して、もう一步踏み込んで武雄に誘致をするのかというのが、もう少し基本的な筋をお示しいただければと思っています。いわゆる企業誘致に対する相手方の関係で、どこら付近でミスマッチになって、そのミスマッチをどう変えるか。たしか1日目にちょっと説明があったと思うんですけれども、その点もう一度改めて御質問いたします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

企業誘致の関係での御質問でございますけれども、今、現段階においては経済状況もかなり厳しいですので、どういう業種が進出意欲を持っているかというのを含めて、私どもとしては今調査をしている。要は企業ごとに、というよりも、業種ごと含めて聞き取り等のお願いをしているところであります。

今のところ、考えられるところからしますと、食品並びに環境、これは市長もさきの議会でもお答えしましたとおりでございますけれども、この辺が好調の業種ではないのかなというところで考えています。ただ、特に製造業あたりについてもなかなか厳しい状況にありますので、この辺ひっくるめて進出企業等も調査しながら、今後は進めていきたいというふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう少しかいつまんで申し上げますと、今までに営業部並びに私が得た報告なんですけれども、一番ミスマッチで大きいのは場所の問題なんです。これはさっきも答弁したかもしれませんが、伊万里、武雄の境界部分に工業団地ということで、佐賀新聞の1面トップに出たときに、いろいろちょっと変遷がありまして、それはちょっといろんな関係者の合意の中で断念というふうになっているんですけれども、やはりそのときの新聞の反応を見た企業経営者の方々が何とおっしゃったかという、やはりインターの近く、とにかくインターの近くに場所が、一団の土地が欲しいということ、それがまず第1点です。これが第1位。第2位が、病院、学校があること。特に病院は24時間、365日の救命救急病院があれば、なおよろしいということに関西の方々は特におっしゃいます。大体、張りつくときには病院が

近くにあると。それと、学校です。それと第3に、これは議会でも申し上げましたけれども、やはり市民の皆さんたち、これは議会も含めて、私たちもそうなんですけど、やっぱり一体となっているところというところは言われます。そういった中で私たちとしては、今、調査を先ほど理事が申し上げたとおりやっておりますけれども、今ある理由は幾つか解決ができますので、それを踏まえて、今後またトップセールスなりセールスをかける必要があるだろうというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

先ほど申しましたように、できるだけ重複を避けたいということで、中身は大体わかりました。いずれにしても、大変厳しい経済状況の中で、29番議員、さらには6番議員からも指摘をされましたように、こういう状況の中での企業誘致をどう一歩踏み込むのかという場合に、やはりミスマッチにならないような取り組みをぜひ具体的にする中で、この政策についても努力をしていただきたいということを申し上げまして、次の大きい2点目の子育て、次世代育成についてです。

これもずっと子育て問題、市長もブログでも、さらには今回の演告でも取り組みの提起をされていますが、その1点目が保育サービス、いわゆる保育所、幼稚園での児童の状況等、そして、その保護者等を取り巻く状況についての現状と今後についての質問です。昨年も私は質問いたしましたが、今回、平成22年4月期、いわゆる平成21年度の市内の幼稚園、保育園の入所の申し込み状況と、それから、定員等の状況について特徴点があればお示しをいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

22年度の保育所の入所関係でございますけれども、定員に対する入所児童につきましては、21年度までは児童福祉施設の最低基準を満たしている場合に限り、年度当初において認可の15%以内、年度途中で5月から9月までであります。認可定員の25%以内で定員を超えて保育を実施することができることとされておりましたですけれども、平成22年度からはこの制限が撤廃されることになりました。施設の規模に応じて受け入れが可能になりますので、今年度につきましては待機児童はいない状況でございます。ちなみに、市内14カ所ありますけれども、定員1,345人に対しまして、申請者は市内で1,357名、市外が79名で、申請入所予定者につきましては、トータルで1,436名となっている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

実は昨年、朝日保育所が統合新設されて、地元の方から入所希望しても入れなかったということがあります。今年度年末に募集が始まりまして、先ほどの数字で私も資料をいただきましたが、定員1,345人に対しての数がありました。実は、市内の保育所と幼稚園がありますが、保育所に至っては、14保育園の中で100%定員を超えた部分が7カ所、90%から75%がその半分の7カ所、実は予定者の方と定員の数字でパーセントを出しました。

ちなみに、朝日保育園が120人の定員に対して159人、130%超えていますよね。先ほど言われた、そういう一定の緩和措置をしていたんですけども、それが廃止されたということですが、逆に市内の幼稚園、6カ園ありますが、定員トータルで680人に対して292人が希望されています。もちろん、保育園と幼稚園のいろんなシステムの状況、さらには年齢等もありまじょうが、やっぱり幼稚園の場合は、実は6カ園のうちに定員に対して50%か60%が半分、30から40%ぐらいの現在の応募が6分の2、20%前後以下が6分の1というふうに私の資料にはあります。そういう数の中で、今さっきありました、いわゆる定員と緩和措置、それは一方で待機児童はないというふうにおっしゃいました。4月以降もそしたら、もしすべての保育園で希望された場合は、待機せずに順次保育園に入園できるということですね。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

お答えします。

この件につきましては定員が、先ほど言いましたように、これは施設の規模に応じた受け入れが必要であります。例えば、1人当たりの保育士の幼児が3人に1人とか、1歳から2歳児につきましては6人に1人とかですね。面積につきましては、満2歳未満の乳児室が1人当たり1.65とか、この辺の基準がありますので、この基準を満たしていれば全部入られるようになります。ただし、希望していて入れない、施設の規模に合致しないというふうなことで入れない方につきましては、選考し、また第2希望等もありますので、そこに入っていくようにしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

今の答弁からすれば、武雄市においては基本的には待機児童は生じないということですね。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

現時点におきましては、待機児童はないものと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

先ほど数字を出しましたけれども、そういう中で、実は保育所と幼稚園の関係で、入園希望者の数に大きな差があります。もちろん、これは担当部がこども部、教育委員会とありますけれども、なぜこのように保育所と幼稚園で入園希望者に大きな差があるのか、まず、基本的な方向性を、基本的な理由をお示しいたします。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

保育園と幼稚園の入所希望の差でございますけれども、幼稚園での児童減数の原因としては、少子化の問題もあります。あるいは、昨今の経済状況の影響もあり、保護者の就労がふえているために、保育園へシフトされているのではないかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

今、少子化と言われましたけれども、箇所とか町によっては、さっき言いましたように緩和措置をせにゃいかんというふうなところもあるわけですね。総体として、さっき言いましたように数字を出しましたけれども、幼稚園の定員と入園予定者、保育園の定員と入所予定者を見た場合に、すごく差があります。例えば、たしかさっき言いましたように、入所条件で年齢、幼稚園の場合は5歳から6歳までとか、いろいろありますし、逆にやっぱり入園料等の料金の関係もあるかもしれませんけれども、さらには、さっき言われた就労者の状況もあります。少子化ということと言われましたけれども、そういうふうな、幼稚園によっては定員の半分以下でも受け入れられている状況の中で、私立の幼稚園の場合、もちろん保育園もありますけれども、大変経営も厳しくなってくるわけですね。もちろん、国の運営費で賄っていく部分もありますけれども。そういう状況の中で、今後、武雄市の子どもたちの子育ての関係で、今、少子化と言われましたけれども、今時点から当座5年間ほど、子どもの、児童の増減推移は一定把握されていますか、現時点で。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

把握はしておりますけれども、数字的なものは今持ち合わせておりませんので、後だって報告させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

確かに国のほうとしては、より以上に少子化対策で一步踏み込んで取り組みをされていますけれども、当然、行政としても把握はされているだろうと思っています。それに基づいて取り組みも提起されていますけれども、財政の問題を含めて、さっき言いました国からの運営費の補助金につきましても、ややもすれば一般財源化されてしまって、どうしても保育費に係る費用が回らないのではないかという心配もされています。

そういう状況の中で、一方では保育園と幼稚園のそういう数の関係を含めて、認定こども園とか幼保の一元化の話もされています。子育て支援という方向性を持った場合に、行政の縦割りもありますが、今後のそういうふうな幼保一元化も含めて、より以上きめ細やかな子育てをするために、どのような方向性を今後やろうとしているのか、担当部局及び市長に御見解をいただきます。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

幼保連携等も各県内でもずっと多くなっておるところでございますけれども、先ほど申されました幼稚園の減少はあっておりますが、民間施設でありますので、そういうふうな相談等が参りましたら、行政としても一生懸命お手伝いをさせていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

ちょっと確認ですけれども、民間施設ですか。幼稚園はすべてが民間施設ですかね。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

市立幼稚園が1つあります、北方の幼稚園でございます。あとは全部民間施設でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

1日目に29番議員は、それとは別に土地の問題もございました。公的土地を含めた施設を

ぜひ有効に使っていく方向性も出されました。一方では、23年度に北方幼稚園を私立化にしたいという案も出されていますけれども、私は本当の意味で、この認定こども園、幼保一元化等ありますけれども、やっぱり将来的な数値をきちんと出された上で、今後の方向性をより以上示すべく、この子育て支援の保育サービスについては、子育てをしている保護者なり、その関係者の不安がないような、そのような状況に取り組むことが必要だと思うわけです。国の方向も子育て支援を明確に出していますけれども、今後の方向性について、市長の所見を望みます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう二月ほど前でしょうか、「報道ステーション」の中である保育園の取り組みが出ていたんですね。これは、私の妻が保育士ですので、「ほらほら、出とう、出とう」と言うて見たんですねけれども、たしか兵庫県か大阪府の保育園で、そこは子どもたちが、これは私立の保育園です。マラソンの42.195キロ走りんさあとですよ。これで私もこう見ていて、熱血園長先生、74歳か75歳の方が一緒に、しかも格好ば見て、はっと思いましたが、裸です。裸で、裸足で1日平均して8キロから10キロを走っている。その大会は42.195キロ、もちろん全員が完走するというのは無理ですけども、助け合ってゴールに行ったりとか、たしか四、五十人走って8人か9人ゴールインしておるですもんね。その保育園はもう満杯だそうです。もう断るぐらいに満杯だそうです。

したがって、私が今、そういうテレビを見ているとき、あるいは保育士である妻から話を聞くときに常々思うのは、要するに、保育を親御さんのニーズを的確にとらえることができるかどうか、もうこれに尽きると思います。要するに保護者の皆さんたちが、例えばこういう保育をしてほしいな、今、皆さん目が肥えられていますので、それを提供できるということになった場合には、それは人はおのずと集まっていく。

私は、保育の雑誌をこのごろ見たときに、多久のさくらんぼ保育園、あれが――保育の雑誌じゃなかった、普通の雑誌に載っていたんですね、さくらんぼ保育園が。ですので、そこも何かいろんな自然を生かして、野歩きとか山歩きをしているということで載っていましたが、やはり各園がそれぞれ特徴を出していくと。しかも先ほど申し上げたように、保護者の皆さんたちのニーズをきちんと酌み取って、それをさらに先ほどの兵庫か大阪府かちよっと忘れましたが、そういった保育園のようにさらに半歩前進、前へさらに前進の保育内容を提供できれば、それはおのずと私は想定されるエリアの外からもお越しいただくということにつながるのではないかなというふうに思っております。

確かに今、経営的に厳しいというのは各理事の皆さんとか経営者の皆さんにお話を伺いますけれども、やはりそういう特徴を出していくということで、私はそこに活路があるという

ふうに認識をしております。その上で行政の果たすべき役割というのは、やはり伸びていくところにしっかりサポートをしていくということでありまして、今後、例えば情報が足りないとか、そういうことがあったときは、こども部を中心として、いや、こういう情報がありますよとか、こういうことでどうでしょうかということ、例えば、研修であるとか勉強会であるとか、保育士部会がありますけれども、そういう連携があるのかなというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

確かに国の政策、県もありますけれども、市長においても、武雄市の場合でも、縦割り行政と言われますけれども、いわゆる教育委員会とこども部の関係、ぜひ連携をとって、よりよき子どもの育成について対応していただきたいということを含めて申し上げまして、2つ目の放課後児童クラブの指導員の雇用条件です。

実は現在、今度、条例改正がありますけれども、11カ所がたしか児童クラブがあるんじゃないかと思うわけです。現時点での私がいただいた資料では、11カ児童クラブの中で、437名の児童と指導員の方が25名、一応資料ではいただきました。私は平成18年の6月議会で、実はこの指導員の方々の処遇、雇用条件等についても質問をいたしました。

その中では、答弁として、当時は、実は指導員につきましては、合併前は各市町で違っていたけれども、合併したら、一応雇用期間が3カ年になっているというふうな答弁をいただきました。しかし、やっぱり最近のマスコミ、新聞報道でも、放課後児童クラブの位置づけと重要性について、さらには、そこで指導員の方々の処遇条件についても実は問題が指摘をされています。指導員の方々については、資格条件はないものの、半数を超す指導員の方々が、小学校の先生方など何らかの資格を有する方とか、いろんな条件の中で、年収も全国平均160万円を切る、3分の2程度の条件で仕事をされているし、多くの指導員の方が渾身的に願っておられるという中で、私も時々、児童クラブを訪問させてもらっていますが、本当に子どもたちの安全、そして命を預かるという大変重要な仕事をなされている中で、その処遇について、私は大変不安定さを持っておる状況を知ることが改めて出ています。

さっき言いました平成18年6月議会では、合併後は3年という雇用計画が出されています。当時、これは前段部分として認識の違いもあったかもしれませんが、市長が答弁の中で、放課後児童クラブの位置づけにつきましては、そもそも論からいえば、私はこんなのなかほうがよかと思うですねと。というのは、基本的に私もそうでしたけれども、地域の皆さんも私も、ぽかっとなぐられたり、あるいは3世代の中で育ってきましたと。子育てというのは家庭、そして周りの地域がまずはぐくむものという基本的認識がありますと言われました。こ

れはもうこれでいいですけども、しかし、そうは言いつつも、やっぱり現状はそうならないと。それは補完的なものという状況の中で、今、放課後児童クラブの必要性も言われています。やっぱりそういう中で児童クラブの必要性を認識する中で、そこで精いっぱいお世話されている指導員の方々、この方々の処遇については、いま一步検討していただく必要があるのではないかと思います。そのために、まず、武雄市は雇用を最長3年としていますけれども、参考までに、もし佐賀県内の児童クラブでより以上の雇用期間を設けてあるところがあれば、把握されているところがあればお教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

申しわけございません。調べております。ちょっと今、資料をあれしておりますけど、後だってお出ししたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

ですから、箇所とかは要りませんので、まず、佐賀県内に場所別にしてもあるんですか、ないんですか、参考として。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休 憩 15時42分

再 開 15時43分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

申しわけございません。資料がありましたので、近隣の放課後児童クラブの指導員の雇用状況についてお答えいたします。

唐津市は日々雇用で1年間、これは社会福祉協議会に委託しているということでございます。多久市が1年間、1年ごとに公募していると。伊万里市が日々雇用で1年間、1年ごとに公募をしていると。鹿島市が日々雇用で1年間、1年ごとに公募をしている。小城市が1年間で、更新は最長5年まで。神崎市が1年間で、1年ごとに公募しているというふうなことで、近隣の7市を調べておりました。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

1年雇用、公募と言われますけれども、武雄の場合もたしか最長3年なんですよね。小城は5年ありました。さっき申しましたように、子どもたちとの関係、さらには保護者との関係、そして指導員の方々の処遇を見た場合に、やっぱりせっかく子どもたち、そして、なれてきたらもうやめにやいかんかねという不安も出ています。子どもはもちろん現武雄市では、現在は1年生から3年生までです。しかし、その中で異動等も含めながら、最長3年の1年契約というですかね、1年1年の最長3年と思うわけです。そういう契約をされていますけれども、ぜひこの3年をもう少しクリアして、今ちょっと1地区出ましたけれども、そこら付近の5年程度まででも、まず第1弾として、そういう処遇が、契約期間の扱いができないものかどうか、できる方向で検討していただけないものかどうかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的には、私が指導を受けていますのは、労働基準法の関係で3年以上は好ましくないということで、そもそも私はできないというふうに聞いていますので、向こう5年間の延長というのが、ちょっと私も伺ってびっくりしたところであります。

その中で、やはり考えなければいけないのは、これは勉強を教えるわけじゃなくて、放課後児童クラブで遊んでいるわけですよ。その中に、確かに長い場合がいい場合と——やっぱり基準というのが必要だと思うんですよ。あと、個々人のこともありますし、現にそこでまた働きたいという方々もいらっしゃいます、放課後児童クラブで。ですので、そういったことなどを考えた場合に、それを私はいたずらに否定するわけじゃありませんけれども、延長については、先ほど申し上げた労働基準法の関係であるとか、あるいは指導員の皆様方の新陳代謝の話であるとか、人員の入れかえという意味での新陳代謝であるとか、あるいは地域であるとか、子どもたちのことを考えた場合に、それは総合勘案する必要があるだろうというふうに思っております、結論的には私は議員とちょっと違う立場であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

以前、3番議員からも、期間じゃなくて場所の関係ですね、市内居住者の方から、できるだけ地元で採用してほしいという質問がありました。今回、私は期間をお願いしているわけです。いろいろクリアすべき条件もありますけれども、しかし、一方ではそういうふうな状況もありますので、いろんな課題もありますが、ぜひ御検討、努力をいただきたいということをお願いしまして、次の項に入ります。

ちょっと1つ残っていましたが部分ですけれども、新幹線に入る前に観光政策について。テレビ力について、ちょっと質問させていただきます。

実は、「佐賀のがばいばあちゃん」のテレビ放映につきましては、この間もずっと説明されてきました。先日、30番議員なり23番議員からも、影響等も経済効果等も質問、答弁されていますが、いわゆるそういう状況の中で、大変お客様がふえているというふうに言われています。一方では、武雄市の分析というのが市報に出ました。その中で観光客数につきまして、増減がありますが、日帰りのお客様はふえているけれども、観光客としてのお泊まりの方が減っていると。もちろんそれにはいろんな条件があります。私も十数年前から温泉会社で働いていました。観光行政に対する観光業務に対する知識は余りなかったんですけれども、しかし、直接お客様と、さらには旅館の組合の方々とも話す中で、当時もいろんな状況を把握していました。

そこで、当時も安い、近い、短い、通称安・近・短というのがあっていましたが、本当に観光事業というのは難しいわけですね。高いときもあれば低いときもあると。大変アップダウンがありました。そこで、当時よく言われたのが、いわゆるリピートでした。繰り返し繰り返しお客様が来ていただくことが観光事業としての第一課題だと、ずっと私も言われ続けてきました。いわゆるリピート。1回歩く、2回、3回とずっとロコミしてもらおうと、いい部分、こういう取り組みがきちんとない限り、なかなか続かんよと言われました。

実は私自身、平成5年から平成10年当時、本当にお客さんもお見えになりました。当時、マスコミ、新聞も、テレビも雑誌も報道されました。自分自身もNHKの放映に出る中で、あちこちの全国の仲間から、おまえ何しよるとかいという話も出るように、当時も雑誌、新聞、テレビ等で相当、平成5年から平成10年当時、温泉ブームで忙しかった時期もありました。

今回、この「がばいばあちゃん」のテレビ力についても一生懸命取り組みをされているようですけれども、今後の課題です。実は、ある地元の観光関係の専門家の方が言われました。大河内君、厳しかばってんが、テレビ、映画を含めてロケ地3年と言うものど、どうしても利用する観光の方々含めて、すぐ切りかえる。だから、ロケ地というのは3年したら、ややもすれば忘れ去られてしまうよという教訓も言われました。そういう意味では、本当にこのロケ地3年と言われる部分をどうクリアするかというのが大変重要だと思いますけれども、今の状況を踏まえて、そういう言葉も出る中で、どのように観光客離れを改善しようとするのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

寂しいお言葉だと思います。ロケ地3年と言いますが、あれはよく考えてみたときに、

私もふと思うのが、この3年間だけで言うと、たった1本のドラマでよくこれだけ人が来たなど。川上の淀姫神社は、観光バスだけで15万人お見えになっているわけですね。車の台数を含めると、恐らく20万人近くの方が、あの川上の淀姫神社にお見えになっています。これは区長さんを初めとして、本当にお世話になっているんですけれども。

そう考えてみた場合に、恐らくビーバイシー、費用対効果として、1回のドラマでこれだけ人がやってきて、しかも観光バスに高齢者の方々がボランティアガイドとして数十名乗っておられると。土日はまだバスがたくさんとまっているんですね。ですので、ぜひちょっと私のほうからのお願いは、これもレモングラスと一緒になんです。きっかけは大きく出たというふうに思います。どこに行っても私が、例えば、長崎に行っても、いろんなところに行っても、どこですかと聞かれた場合に、佐賀ですと言ったら、ああ、「佐賀のがばいばあちゃん」ですねというふうにもう根づいているので、ある意味、BバイCからすると、もう効果は果たし終えたんじゃないかと。さらにこれに依拠し過ぎるのは、私は問題だと思いますので、2点申し上げたいと思います。

1つは、また「佐賀のがばいばあちゃん2」がありましたので、ロケマップを整備する必要があります。これは佐賀県のフィルムコミッションも一緒につくろうというふうになっていますので、武雄のみならず佐賀県に広がっていくような広域観光の一助にしたい、これが1点。

2点目が、きょう、武雄焼のシンポジウムが行われているところであります。レモングラスのゆう菓を使ったもので、もう終わっていると思いますけれども、東馬窯の馬場宏彰さんが説明をし、今、シンポジウムが行われているところで、前ここで仕事をされていた西日本新聞の田代芳樹記者、今、論説委員でありますけれども、が入って今シンポジウムをされています。夜にはまたいろんな懇親会が行われるということで、今、目がここに引きつけられていますので、武雄焼もまず一つの観光資源、もちろん武雄温泉も観光資源、これは黒髪温泉も入ります。それともう1つが、きのう牟田議員から質問で出ましたけれども、パワースポットということで、例えば、若木の永野の風穴であるとか、武雄の大楠であるとか、若木の大楠であるとか、そういったことで、単に武雄がこうあるというアピールではなくして、やっぱり受ける、特に20代、30代の女性に受けることもしなきゃいけないということを思っております。女性を引きつけることができれば、その後ろに男がついてきます。そういうことで、ぜひそういう観光のターゲットをきちんと振り分けて、例えば、武雄駅だったら御高齢者の層であるとか、パワースポットだったら若い層であるとか、「がばいばあちゃん」だったら、例えば、子どもたちの層まで含めて、層というふうにして総合的に展開する必要があるだろうというふうに思っています。

ここは議員と認識は同じだと思いますけれども、「がばいばあちゃん」だけに依拠するのはもう終わったと。そういう意味で言うと、これは樋渡市政の4年間はある意味、新しい

観光の形を提示ができたなと思っています。観光客も入り込みで3割ぐらいふえていますので、そういう意味で、今度は日帰りから泊まりになっていくように、それは官民一緒になって考えていくと。今、マスコミの注目をまだ集めていますので、ぜひ私は宣伝媒体として、さらに武雄に来てくださいと、来てくんしゃいということの先頭にまた立っていきたいなど、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

宣伝効果も言われていますが、実はこの武雄市内の旅館の関係等で、先日、老舗の旅館さんが、ちょっと経営が厳しか状況も出てきました。厳しい状況です。一方では、聞き伝えれば、旅館組合、今まで3つありましたね。この旅館組合が一本化されて、本当の意味で武雄市の観光のための旅館組合を一本化してやっていこうということも方向性として出されているようです。大変いいことです。

そういうふうな武雄市の観光の中では、やはり以前から地道でなかなか目立たんか知りませんが、以前は泉誘会というのがありました、泉都武雄にお客様を誘致する会。こういう部分で一生懸命地域を回ってお客様の来客運動もされた、取り組みもされているし、また一方では、一番近いところではお客様の要望なり運動ということで、桜山の散策に対するまちづくり武雄で、まちづくり交付金事業の5,000万円は消えましたけれども、町の交付金としていただいた分で散策道路、桜山をつくられています。そういうふうないろんな観光面での取り組みもされていますので、今後そういうふうな旅館組合なり、さらには地域の方々とのタイアップで、ぜひこの観光をアップしていきたいわけですが、その関連で、実はテレビ放映の「佐賀のがばいばあちゃん」について、もう少しお聞きをしたいと思っています。

私は率直に言って、まだようわからんのです。というのは、行政が民間放送のテレビ視聴率アップの取り組み方はどこら付近までやられているのか。私はちょっと、行政は行政のスタンスであり、視聴率アップはその民放局、番組がもともと盛り上げるのが本当じゃないかなと実は自分はずっと思っているんです、私は。そういう状況の中で、実は今回、2月20日のフジテレビの民放に対する視聴率アップ等の取り組みをされました。

先日、13番議員の質問でちょっとありましたけれども、実はこの広報宣伝で、市長みずから広報を朝日町を中心に回られたとお聞きしました。大変お疲れさまでした。問題は、そこでたしか吉川議員と一緒に回られたということで、吉川議員の要請を受け、吉川議員の車の中で二、三日間、朝日町を回ったと、吉川議員の運転する車で宣伝PR行動を行ったとおっしゃいました。それはそれでなんですけれども、まず、その前段として何点か御質問ですが、17時15分から運転されたのは、市議会議員の車でということでしたね。がばいばあちゃん課

とありますよね。なぜ、武雄市の広報車を使って宣伝をするというのがまず前段ですけれども、されずに私的な車でお回りになったのかということ、素朴な疑問です。お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、褒めていただくと思って聞いていて、非常に実は悲しくなったところであるんですけども、市の広報車の場合は、例えば、これは超勤がつく可能性があるんですね。運転する人によっては、17時15分を過ぎると。あるいは、ガソリン代も市の公費から出るわけですよ。ですので、そういうことじゃなくて、やっぱりそれは、吉川議員は私は偉いと思いますよ。朝日の人に見せたいと、見てもらいたいということで、自分がするよりは、やっぱり朝日出身の市長が宣伝して回ったほうが町民の皆さんたちの気持ちを打つばいということをおっしゃって、みずから運転を買ってもらって、ガソリン代は吉川さんが払っとんさっわけですよ。ですので、市にそういった負担をかけることなく、あるいは人件費等の負担をかけることなくやっていただいたと。これこそがボランティア精神の発揮じゃないでしょうか。私はそういう意味で言うと、吉川議員の行われたことは、ある意味、真つ当な意味でのボランティア精神の発揮、議員活動の一環として、よく私に要請をしていただいたなど。

そして私も、これは誤解を招かないように申し上げますけれども、きちんと一般通念上の、私は市長ですので、勤務時間という観念はありません。これは政治家の皆さん方と一緒に。ただし、社会通念上、これを例えば朝やるとか、昼やるとは問題です。したがって、私は17時15分以降2時間程度、3日間時間がありましたので、朝日町をくるくるくる回って放送したと。

これに対する批判は私のところには、多分、吉川議員もそうですけれども、1件も来てないんですね。少なくとも来ていません。私がこうやって話していると、手を振られたりとか、非常にいい反応でしたので。そしてしかも、この前の前田議員の御質問でもお答えをしましたけれども、来週と思うとったら今週やったとかという声もいただきましたので、それこそがやっぱり見ていただくことで、自分たちの物語なんだと、武雄でロケがあったんだということ、これを認識していただくということでいえば、その批判というのは、私は率直に申し上げて当たらないのではないかなというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

すばらしいボランティア精神での取り組みですね。これは吉川議員の、もちろん市長も公人ですけれども、名誉のために、ぜひ市長にお尋ねですけれども、吉川議員の車ですよ。

スピーカーはその車のどこにつけてありましたか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

済みません、お話しすることがちょっといっぱいいっぱい、スピーカーの位置はたしか、私が助手席に乗っておりまして、その横にあったように認識をしております。そのアンプはたしか——ちょっとこれは間違いだったら許してほしいんですけども、足元にアンプがあって、そこからマイクが出てきているというふうで、簡易型のスピーカーだったのかなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

公人ですよ。簡易型であれ何であれ、先ほど吉川議員の名誉もありますけれども、スピーカーを取りつける場合には、基本的にボランティアであれ何であれ、公道を走る場合には、警察に道路使用許可申請書を提出しますよね。（発言する者あり）ですから、私から見て吉川議員に言っています。だから、今、市長が申されました、自分の横にあったと、スピーカーが。私も町民の方から聞きました。サイドミラーのところにスピーカーがついとったもんねと、あれで警察は許可するとねと。本来警察は、この道路使用許可申請をすれば、通常は屋根上ですよ。今おっしゃったように、サイドに、わきにつけるということは、本来、私は道路使用許可申請は受理されるのかなと率直に思ったです。市民の方から話があったものですから。

そしたら、もう一度聞きましょう。武雄市長は武雄市交通安全対策協議会の会長ですよ。言われました。公人であり、公人扱いでもだんだん、自分は一生懸命この「がばいばあちゃん」のことを言うてさるいと、手も振ってもろうたということですよ。しかし、ルールはルールじゃないんですか。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常に寂しい議論だなと思います。と申し上げますのも、私は3日間にわたって、警察車両ともすれ違いました。そのときに、もし本当にこれが道交法上の問題であるとか、あるいはさまざまな風紀の問題であるとかいった場合には、必ず当局から後で御指導があります。そういった中で少なくとも、これは所有者はあくまでも吉川議員ですので、後でお聞きになってもらいたいと思うんですけども、少なくとも私が知る限り、そういうクレームが、あるいは御指導が入ったというのは、私は聞いてはおりません。

もう1つ、もし、何というんですかね、私はその中で、例えば、公人として営利の話をしている。例えば、ある特定業者の利便を増すために商品活動を行っているということであれば、その内容、あるいはスピーカーの大きさ等々で私は公職選挙法なり、あるいは道交法上なりの規制を受けてしかるべきだと思いますけれども、単に見てほしいという一心で「がばいばあちゃん」の宣伝をしているだけなんですね。ですので、全くルールを破ったとか、私もルールは認識しているつもりでいます、私も役人出身でありますので。ですので、私の法規範の範囲内からすれば、あのとき——宮本さんよろしいでしょうか、法規範の範囲内からすると、それは社会通念上も法規範の範囲内からも許されるというふうに認識をして、私は吉川議員の運転のもとに、「がばいばあちゃん」が2月20日にありますということを申し上げました。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

ですから冒頭申しました、大変御苦労さんでしたと。それはそれでいいですよ、別に「がばいばあちゃん」の宣伝をすることに文句はありません。問題は、あなた自身が今おっしゃったですね、車の横しにスピーカーを置いたと。本来は、そういう話が私にもあったもんですから、そういうふうな車両で市長が、私は市長の樋渡ですと言いながら、そういう車を運転しながら町内を回ってさるくというのは、幾ら何でもそれは視聴率アップのための施策としてはやり過ぎではないかという苦情が寄せられたんです。

あなたにはあっていないと言われますけれども、市民の方々はすべてはそうじゃないんですね。だからさっき言いました、この視聴率アップのためにやるんだったら、少々までいいんじゃないかというふうな、私はそういうふうな聞こえるんです。しかし、あなたは武雄市交通安全対策協議会の会長であり、公人なんです。公である以上、そこはやっぱり公人としての対応は、幾ら市長としてこの「がばいばあちゃん」の宣伝をするにしても、冒頭言いました、それはそれでいいですけども、本来は視聴率アップは、民放の場合は民放が精いっぱい努力するんであって、そういうふうな道交法に違反されるよと言われるような、（発言する者あり）私に対して言われるような、そういうふうな対応をするのは私はいかなものかということで質問したわけです。

最後ですけども、まだ本当にあなたは、今回の分については道交法違反は一切していないということですね。お伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩いたします。

休 憩 16時10分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁を申し上げます。

まず、趣旨、目的でありますけれども、あくまでも武雄市でロケがあった。特に朝日の皆さんたちがいろんな応援をしていただきました。そういった中で、自分たちがかかわる、あるいは自分たちが生まれ育った、あるいはお嫁に来たところが、やっぱりロケ地になって全国放映をされるということをぜひ知っていただきたいというその一心で行いましたので、いたずらに視聴率アップと、それは結果かもしれませんが、現に第3編になるに当たっては、武雄の視聴率も佐賀の視聴率も関係ありません。あくまでも関東、関西の視聴率はその続編に続くことで、これは15%前後を越すということがその条件になるようです。ですので、視聴率アップを目的としてというわけではありません。あくまでもお一人でも多くの皆さんたちに見てもらいたいが一心のために行ったものであり、もとより道交法の違反等については私はしていないし、そういう意識もございませんでしたし、そのそしりを当局あるいは市民の方からいただいたこともありませんので、私は自分のなすべきこととして、行政に負担をかけずにこうやったということであれば、私はなすべきことをやったということで理解をしております。

私も、あくまでも市民を代表する立場でもあり同時に、市民の一人でもあります。とりわけ朝日に生まれ育った者であります。そういった意味で、これは大河内議員と同じであります、朝日という意味ではね。だから、そういう意味で私は愛郷心の一心、それだけはぜひ大河内議員、御理解をしていただければありがたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

時間の関係で、あと1つあるものですからなんですけれども、言いたいのは、御理解、御理解と言われるんですけれども、途中申されました、法治国家です。道交法に触れちゃいかんと思うわけです。というようなことを言われていましたので、そういうことを言われなようなことをしてもらわないと、私どもも大変なんです。ぜひそういう意味では、今後もう少し配慮をお願いします。

最後です。新幹線です。実はこの新幹線問題で、今、県議会もあっていますが、先日の長崎知事選挙の中で、たしか朝日新聞社がアンケート調査されています。その中で、新幹線の

西九州ルートについての県民の方の調査をされていますが、新幹線建設に反対の方が46%、賛成が32%、その他が22%でした。その中で、市長もブログに書いてありますが、新幹線につきまして、江北町長、鹿島市長も書いていますが、それに対して市長は、このデータに対しまして、わたしたちの新幹線課を設けて事業推進に取り組む樋渡啓祐武雄市長は——これは朝日新聞の報道です。まだ多くの長崎県民の目に触れる場所で工事が進んでおらず、認知度が低いせいだと冷静に受けとめる。鹿児島ルートなどの事例を見ても、工事の進捗に比例するように地元の期待は高まっていくはずだというふうに、この反対者の46%に対しても言われています。そういう意味では、認知度が低いせいということについて、もう少し御説明をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私も朝日新聞から、桑原市長と並んで私のコメントが載るようになったのかと思って、非常にどきどきしながら、実はその朝日新聞を見ておりましたけれども、非常に冷静な書き方をされていて、うれしく思っています。

その中で私としては、やっぱりこれは病院問題もそうなんですけれども、今、例えば、病院が新武雄病院として新たな場所に造成が始まっています。そうなってくると、一般の市民の皆さんたちは、ああ、これでやっとなっていくんだということで、うまくは説明できないんですけれども、やはり建設が始まる、あるいは実体があるということになると、そこに大いに期待をしていただきます。

そういう意味で、私はそれをなぞられて、この部分は新聞には載っておりませんでしたけれども、これを引用した形で、私はいろんな工事がある、トンネル工事ができたりとか、いろんな話が出てきたりとかということがあれば、これは未来へつながる道だと、関連上、空想の話ではなくて、実際になっていくんだといったときに、私は効果が体感できるという意味で、先ほどのインタビューに応じ、それがそのまま載ったということでもあります。

もとより、ローマの帝国のジュリアス・シーザーは、人は見えるものでしか判断はできないということを残されています。私もある意味、それがすべてだとは思いませんけれども、それは政治をやってみて、それは体感できる話でありますので、さらに工事が進捗するようになると、佐賀県内、長崎県内でもますます私は支持率というのは高まるだろうというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

実は長崎県民の方、私、佐世保、大村、諫早、長崎の仲間にも——仲間というか、何人か

にも直接または間接的に聞いてみました。認知度の問題です。長崎県民が認知度がないじゃないと、費用対効果含めてなかなか効果が出ないと、そういう意味で自分たちは反対しているんだと、賛成できないという意味であり、認知度の問題ではないと言われます。私は市長として、やっぱりもとの霞が関感覚がありませんかと思ったんです。というのは、工事が始まればいろいろ言うてくれるなど。もう公共工事が始まれば、反対してもだめよという気持ちがあるのではないかというふうに実は思ったわけです。長崎県民の方もそれを言われました。

工事が始まったら認知度が認められるということでしたので、そのことを強く申し上げ、新幹線反対を申し上げまして、私の質問を終わります。

以上です。